

# 国際交流つうしん



P.3 国際数学オリンピックでのボランティア活動



P.6 グローバル・ゴールド・セプテンバーキャンペーン (GGSC) での灯籠作り

## 目次

- P.2 まちで見つける世界の扉 ～八千代市編 (村上団地)～
- P.3 ボランティア活動報告
- P.4～5 事業報告 (令和5年7月～10月)
- P.6 グローバル・ゴールド・セプテンバーキャンペーン (GGSC) 今後の行事予定
- P.7 JICA千葉デスクのページ
- P.8 世界からようこそ千葉県へ! ～パプアニューギニア独立国～ 国際理解セミナーのご案内

広告

「日本語を教える」としたら **スリーエーネットワーク**



各国で翻訳出版されたベストセラーの新版!

新版 **サードカルチャーキッズ 国際移動する子どもたち**

デビッド・C. ボロック、ルース＝ヴァン・リーケン、  
マイケル・V. ボロック 著  
嘉納もも、日部八重子、峰松愛子 訳  
2,420円(税込) 四六判 461頁

国際移動によって様々な「間(はざま)文化」で育ち、アイデンティティに揺れるサードカルチャーキッズが抱える問題を分析。名著の改訂版です。


最新刊や教材の使い方動画の情報等は <https://www.3anet.co.jp/>

広告

入管手続きは行政書士にお任せ下さい。

申請取次行政書士に申請依頼をすると、申請人本人は **出入国在留管理局への出頭が免除**されるので、**仕事や学業に専念**することが可能です。

お問い合わせは…

 **千葉県行政書士会**

[www.chiba-gyosei.or.jp/](http://www.chiba-gyosei.or.jp/)

〒260-0013 千葉県千葉市中央区中央4丁目13番10号  
TEL: 043-227-8009 FAX: 043-225-8634



## まちで 見つける 世界の扉

### ～八千代市編～

八千代市の外国人登録者数は7,067人で、国籍別ではベトナム、中国、フィリピン、ブラジル、ネパールが上位5か国となります。（令和5年7月末現在）今回は八千代市内の村上団地内で地域の在住外国人の相談窓口となっている八千代市多文化交流センターと、そのすぐ隣のお店で南米の食料品を扱い、作りたての美味しい軽食のサービスもあるモンテヤマザキを取材しました。

## 八千代市多文化交流センター

八千代市多文化交流センターを所管している、八千代市企画部シティプロモーション課の増田課長と担当者の河野さん、井上さんにセンターの取り組みや、八千代市内に住む外国人の状況について伺いました。



左から河野さん、増田さん、井上さん

### —— 八千代市多文化交流センターの役割は？⇒「外国人居住者への情報発信や相談窓口」

八千代市多文化交流センターは、外国人居住者への情報発信・相談・地域交流の場として、2010年に村上団地中央商店街内に開設されました。当時は、市内に住む外国人の約4分の1が村上団地に住んでいて、そのほとんどが隣接する工業団地で働くブラジルやペルーの人たちでした。ごみの出し方や騒音など地域住民とのトラブルも増えました。その原因は、生活に関する情報が外国人居住者に届いていないことや文化の違いなどにあると考え、多言語による情報提供を始め、スペイン語・ポルトガル語・英語の相談窓口を設けました。訪れる人からは、市役所から送られてきた手紙が読めない、申請書類の書き方がわからない、病院の予約ができないなどの相談が寄せられます。最近では、新型コロナウイルス感染症の予防接種の相談も増えています。子どもの学校についてもとまどう人が多いので、情報が必要な期間には小学校就学前に準備するものをセンターの中に展示して、わかりやすくサポートできるようにしています。



### —— 最近の村上団地と外国住民の傾向は？

村上団地も最近では高齢化が進んでいます。外国人住民も同じ傾向にあり、高齢により母国に帰国を希望する人や年金の受給に関する相談なども増えてきています。しかしその一方で、令和6年春には団地内に寮制の日本語学校が開校する予定で、若い外国人住民が増えることが予想されています。新たな風が吹きこまれ、団地の活性化につながることを期待されています。

## モンテヤマザキ ～団地愛あふれる店主がいる南米食料品店！

約40年村上団地とともに歩みを続けてきた「モンテヤマザキ」の店長の山崎恵裕さんに、村上団地への思いや、団地の活性化を目指して取り組んでいることなどについて、お話を伺いました。



店長の山崎さん

### モンテヤマザキのあゆみ



レトロな雰囲気のお店

約40年前に私の父親がパン屋「モンテヤマザキ」を創業しました。当初は日本人ばかりでしたが、平成2年の入管法改正を機に、団地には南米からの移住者が急増しました。団地に隣接する弁当・総菜製造工場働く南米人から、現地の豆などの食料品を置いてほしいとのリクエストを受けていくうちに、輸入食品販売がどんどん広がっていきました。レストランを開いていた時期の名残りで、今は軽食の提供や食品等の販売もしています。お客さんの半分くらいは、ブラジル・ペルーの人たちで、親子で数世代にわたって利用する人も多いです。

### まちづくりへの取り組み

接客を通じて生活の相談をされることも多く、いつも住民に支えられながらお店を続けていかれることに感謝し、できる限り解決に向けてアシストしてきました。この助け合いのまちづくりを若い世代に引き継いでいきたいのですが、団地にはなかなか若い人が集まらないのが現状です。

そこで、若い外国人住民たちを呼び入れようと、団地の活性化を目指して、「村上みらいプロジェクト」を立ち上げました。商店街内のお店のオーナー、団地エリアの幼稚園の園長など、10名ほどで、新たな住民や外国人住民のために、ローマ字と日本語の村上散策マップを発行して、散歩コースを案内するなど、まちづくりに取り組んでいます。次は防災お役立ちマップの作成を検討しているところです。

今年7月には花火大会「団地de花火」を開催しました。当初300名程度の来場者しか見込んでいませんでしたが、なんと1,400人も来場者が訪れ大盛況となりました。最近増えてきているベトナムや南米の人たちもたくさん来てくれましたので、来年は「盆踊り」など国籍や言葉の壁を超えたイベントを開催し、地域の一体感を盛り上げていきたいです。

### モンテヤマザキのこれから



日本料理の修行経験もある山崎さんが自ら腕を振るう軽食に舌鼓！

令和6年春、村上団地内に日本語学校（民間の学校法人）とその生徒向けの寮の入居が予定されています。団地に住む東南アジアを中心の若者たちを、地域の活力にできるよう、いろいろな人を巻き込んで、まちを盛り上げていきたいです。ゴミ出し方法などのルールの周知方法も模索中です。ご興味がある方は、私たちとともに、まちづくりをやってみませんか？寄付金やボランティアも募集中です！

モンテヤマザキ  
千葉県八千代市村上団地2-9-102 TEL：047-482-0766



南米の食料品をそろえる店内

店舗前でお話を伺う間にも、通りがかった人が次々に山崎さんに声をかけていき、住民の方々に大変信頼されているご様子。お人柄と料理の腕前で人々の心も胃袋も捉えてしまう山崎さん、接客しながらの取材協力ありがとうございました！

# ボランティアの皆さんありがとうございました！

当財団MICE事業部が誘致を行った国際会議でボランティアの皆さんが活動しました!!

## ◆国際数学オリンピックボランティア@幕張メッセ、東京ベイ幕張、成田空港 7月6～13日

国際数学オリンピックは、世界中の高校生たちが「数学」という国境を越えた世界共通の学問を通じて友情を深め、国際交流の輪を広げることを目的とした国際大会で、海外約112の国・地域からおよそ1,000名が参加しました。

総勢49名の語学ボランティアの方々が、選手に配布する記念グッズの準備、成田空港での選手の出迎え、ホテルのチェックイン、会場誘導などで活動し、大会をサポートしました。

久しぶりのボランティア活動で「緊張する」と話していたボランティアさんも、活動が始まると、来日した選手や関係者たちとの交流を楽しんでいました。



運営側の人達と一緒に

## ◆9 IDMRCS@千葉市美術館、千葉市郷土博物館、見浜園 8月15・17日



版画体験

ガラス状物質や高分子などに代表される複雑系の示す多様な物性に関する最も権威のある国際会議である「第9回IDMRCS」が幕張メッセで開催され、海外からおよそ600名が来日しました。当財団MICE事業部が、千葉の魅力を多くの参加者に知ってもらおうとエクスカージョンを企画し、千葉市美術館でのお寿司のパフォーマンスや版画体験、千葉市郷土博物館での千葉城と博物館の見学ツアーに当財団のボランティア6名の方々がアテンド通訳として活動しました。

最終日の懇親会では、見浜園を舞台に夏祭り風屋台での、ヨーヨー釣りや、射的ゲームの体験会が行われ、8名のボランティアの方々が浴衣を着用して体験会での通訳として活動しました。



ヨーヨー釣り

## ◆Inter-noise【国際騒音制御工学会議】@幕張メッセ、見浜園 8月21～23日



折り紙体験

騒音及び振動の制御に係る最新の研究・技術を発表する国際会議が幕張メッセで開催されました。期間中は、折り紙体験コーナーが設置され、当財団のボランティアの方5名が英語で、折り紙体験をアシストしてくださったおかげで、参加者は会議の合間に鶴や兜、箱などを作って楽しみました。

見浜園では、数寄屋づくりの本格的な茶室、「松籟亭」を見学しました。日本の和室を初めて見た参加者たちは、「どうしてこんなに入口のドアが小さいの？」と興味津々でした。

呈茶のパフォーマンスでは、ボランティアの方にお茶の先生の通訳をしていただきました。入れたてのお茶ときれいな和菓子がふるまわれ、このお茶はどこで購入できるかなどの質問もありました。



呈茶体験

◆国際協力パネル展 6月26日～7月3日

千葉県ユニセフ協会、千葉県、JICA東京と共催で、そごうギャラリーにて、それぞれの活動を紹介するパネルや写真などの展示を行いました。新型コロナウイルスが5類に移行して以降、ギャラリーはたくさんのお客様にぎわっていました。



◆地域日本語教育推進事業 調整会議 7月20日

千葉県の地域日本語推進事業の円滑な実施のため、具体的な進行方法や来年度の実施計画について、委員とともに検討しました。大学や日本語教育有識者、市町村国際交流協会の貴重な意見、現場の声を元に、より効果的な事業の実施に向けて協議しました。

◆日本語学習支援者フォローアップ講座 9月7日・26日

地域で活動されている日本語学習支援者の方々を対象に、活動のヒントを学ぶ講座を開催しました。支援活動の対象者別に〈子どもへの支援活動編〉〈生活者（大人）への支援活動編〉と題し、総勢43名の方にご参加いただきました。昨年に引き続き対面での開催となり、グループワークや質疑応答を交えながら、大いに盛り上がりました。



子どもへの支援活動編の様子

9月7日 子どもへの支援活動編

テーマ：「外国ルーツの子どもたちと豊かな学びを目指して」

講師：高柳なな枝 氏（地球っ子クラブ2000代表）

9月26日 生活者（大人）への支援活動編

テーマ：「学習者の視点に立った漢字学習

～漢字を楽しく効果的に支援するために～」

講師：鈴木英子 氏（公益財団法人宮城県国際化協会

地域日本語教育コーディネーター）

※『どんどんつながる漢字練習帳 初級』

『どんどんつながる漢字練習帳 中級』 編著者



生活者（大人）への支援活動編の様子

◆千葉県災害時多言語支援センター設置 9月8日・9日

9月8日に、台風13号の接近に伴い、千葉県災害対策本部が設置されたことをうけて、千葉県災害時多言語支援センターを立ち上げ、県内外国人支援への対応にあたりました。HPやSNSで必要な情報を多言語で発信するとともに、当財団に登録のある語学ボランティアの皆さんに翻訳の協力を呼びかけたところ、53名の方から協力の申し出をいただきました。今回活動はなかったものの、日ごろからボランティアの皆さんとの連携を持つことで、いざという時に備えていきたいと思えます。



◆多文化共生理解促進講座

7月10日 千葉大学附属小学校（2年生対象）

イギリス出身のローラ先生に、イギリスの衣食住について説明してもらいました。日本ほど学校の数学などの勉強が難しくないと聞いて、子供たちからは驚きの声があがりました。レンガ造りの建物が多く見られることをたくさんの写真とともにご紹介いただき、見慣れた日本の建物の外観との違いに、子供たちは興味を持って話を聞いていました。

7月12日 千葉市立花見川小学校 特別支援学級

外国にルーツのある子供が多数在籍する花見川小学校では、誰でも自分のルーツに誇りをもち、友達の国がどんな国なのかをお互いに知る授業を行い、それぞれの国に魅力や良さがあることに気付くきっかけとなりました。



## ◆多文化共生理解促進講座 (前ページから続き)

### 8月24日 千葉大学附属病院 (小児病棟) 病室から世界をのぞいてみよう〜ペルー絶景マチュピチュバーチャルツアー2023



ペルー出身で旅行会社に勤務する上村 寿安 カルロスさんが、千葉大附属病院に入院している小児がんの子どもたちを、ペルーの世界遺産マチュピチュをめぐるバーチャルツアーに案内してくれました。まずは成田空港から飛行機でクスコへバーチャル移動！機内から見える景色を大きな画面で見ながら、アナウンスなどの音声が加わり、臨場感たっぷりの旅客機搭乗が体験できました。現地ガイドの説明を聞き、



壮大なマチュピチュ遺跡の中でアルパカやリヤマの赤ちゃんを見た子どもたちからは、「かわいい〜」と声があがっていました。この講座は、認定NPO法人小児がんミルフィーユフロンティアーズの協力を得て、長期入院中で病室にいる子どもたちが医療関係者や家族のほかに、様々な人や生活文化、考え方を学び広い視野を持って退院後の自信やよりどころにしてほしいと願って開催されました。

### 9月15日 船橋市立二宮中学校

スリランカ、ペルー、中国、インドネシア、パキスタン出身の講師が、中学3年生7クラスを対象に、出身国別エピソードゲーム「レヌカの学び」を使用した授業を実施し、講師のバックグラウンドに触れながら、多文化理解を深めました。

### 9月20日 市川市大洲小学校

ブラジル、メキシコ、中国出身の講師が小学5年生3クラスを対象に、世界の国の暮らしと日本の暮らしを比べる授業を行い、身近にいる友達との関わりを考えながら他国の文化を受け入れることについて考えました。

## ◆国際交流・協力等ネットワーク会議 10月5日

千葉県と共催で、市町村、市町村国際交流協会、民間国際交流・協力団体等の担当者を対象とした会議を、4年ぶりに対面で開催しました。第一部の団体の活動紹介では、①市川市国際交流協会「国際交流活動の再開について」、②ウクライナ避難民の方から「本当のことを知る大切さ〜ウクライナから避難して」、③松戸市経済振興部「日本梨をドミニカ共和国の特産品に！」④佐倉国際交流基金「佐倉市国際文化大学について」の発表がありました。

第二部の分科会では、①国際交流②ウクライナ③国際協力の3テーマ4班に分かれ意見交換をしました。今後いろいろな団体が連携し、県内の多文化共生や国際交流活動が促進されるよう、ネットワークを広げていきたいと思えます。



## ◆エコメッセ2023 in ちば@幕張メッセ国際会議場 10月15日

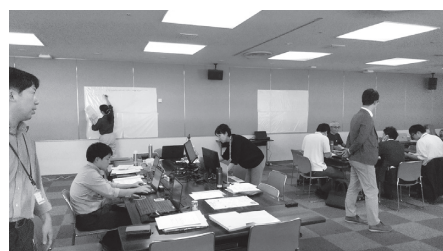
「エコメッセ in ちば2023」において、多文化共生に向けての取り組みや事業をパネル展示と映像で紹介したほか、小・中・高校において交流活動をしているブラジル・アメリカ出身の講師2人に、小学生向けの講座を日本語と英語で披露していただきました。またSDGSへの取り組みのイベントとして、フードドライブ（寄付いただける食品の回収）キャンペーンを9月26日から実施し、(一社)千葉県環境保全協議会、千葉ウイスコンシン協会をはじめ、たくさんの食品をご寄贈をいただき、フードバンクちばへお届けしました。



## ◆千葉県災害時多言語支援センター運営訓練 10月19日

千葉県と共催での多言語支援センター運営訓練は、今年で2回目になります。今回は語学ボランティア8名の方が遠隔で参加してくださり、災害時に必要な情報発信の多言語化をお手伝いいただきました。

講師の方からは、どこの国の出身者が多いか、どこに周知したらよいかを予めそれぞれの自治体が把握しておくことで、発信言語を絞り込むことができる、また、語学ボランティアの方々などと普段の活動を通してつながり、訓練を積み重ねていくことで、より対応の精度をアップさせていくことができる、とのコメントをいただきました。





# Global Gold September Campaign グローバル・ゴールド・セプテンバーキャンペーン (GGSC)に参加しました！



9月9日(土)

千葉県国際交流センターでは、多文化共生理解促進講座を令和2年度から実施していますが、今年度は県内の小・中学校に加えて、医療・福祉分野にも拡大して実施することになりました。NPO法人日本小児がん研究グループ(JCCG)が主催するグローバル・ゴールド・セプテンバーキャンペーンに認定NPO法人ミルフィーユ小児がんフロンティアーズといっしょに参加しました。

## GGSCとは？

9月は世界的な小児がんの啓発月間で、「多くの人に小児がんを知ってもらいたい」という願いから、小児がんと闘う子どもたちや経験者、その家族の思いをシンボルカラーの「金色」で各名所やシンボルをライトアップしたり、金色を身につけて、子どもたちへの支援を呼びかける世界的なイベントとして、千葉では2年前から開催されています。

## 千葉ポートタワーをライトアップしました！

第1部のイベントには、パキスタン出身のシディキ タンヴィル バルニーさんと、ペルー出身の上村 寿安カルロスさんにファミリー応援団として家族でご参加いただき、35名の小児がん経験者やその家族と灯ろうを作って交流しました。

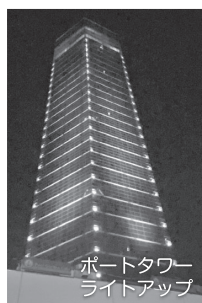
第2部では金色にライトアップされた千葉ポートタワーの下で、千葉県こども病院や千葉大学附属病院、成田赤十字病院に入院中の子どもたちやご家族が作った灯ろう70個を飾り、YouTube中継で、ポートタワーに集まった小児がん経験者の子どもたちや、ご家族からの想いを伝え、最後に全員で「みんな仲間だよ！」と全国に呼びかけました。ポートタワーには総勢50名以上の小児がん経験者家族、医療関係者などの方々が集い、千葉市保健福祉局長はじめとするの方々からも応援のメッセージをいただきました。



灯ろう作り



バルニーさん講演



ポートタワー  
ライトアップ



灯ろうの前で記念撮影



みんなで作った  
灯ろう

## 今後の行事予定

事業	内容	時期(予定)
多文化共生理解促進講座	外国人講師による出身国の紹介と、ディスカッション等を中心としたクラス授業の実施	随時
日本語学習支援者基礎講座	初心者を対象に、必要となる基礎的な知識や素養を養うための講座	11月
地域日本語教育関係者ミーティング	日本語学習支援の活動に役立つ情報の提供や、意見交換等を図るための会議	2月
オンライン日本語クラス	県内の外国人を対象にオンラインで日本語を学ぶ講座	1～2月
外国人相談担当者意見交換会	県内の外国人相談担当者向けの講演・意見交換	2月
災害時外国人サポーター養成講座	災害時に外国人をサポートする人材を育成する講座	1月
国際理解セミナー(県と共催)	県民に広く、国際理解を図る講座、意見交換	1/28(日)
国際理解セミナー(JICAと共催)		2/23(金・祝)

## 千葉県国際交流センターHP&SNS

千葉県国際交流センターでは、センター主催のイベントや県内の国際交流・協力団体の情報のほか、各種相談窓口や日本語教室のリストなど、外国の方にも役に立つ情報をホームページで紹介しています。またFacebook・Instagram・Twitterで最新情報も発信していますので、ぜひご覧ください。

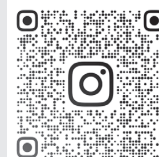
HP



Facebook



Instagram



Twitter



## JICA千葉デスクが交代しました!



「ハロー!」「マルハバ!」「テナ・スティリン!」「ミンガラバー!」皆さま初めまして、今年7月からJICA千葉デスクに着任いたしました岩沢久美子と申します。冒頭の言葉はこれまで私が暮らした国のこんにちはの挨拶です。皆さま、どこの国だかわかりますか?

これまで、イエメン、ヨルダン、イラク、レバノン、エチオピア、ミャンマーで主に教育協力の業務を行ってまいりました。コロナ禍で2020年に約20年ぶりに故郷の千葉県に戻ってきて、ご縁あってこの度JICA千葉デスクの業務につけたこと、大変嬉しく思っております。今後は、千葉県におけるJICAの窓口として、千葉県と世界をつなぐ活動ができればと思っております。

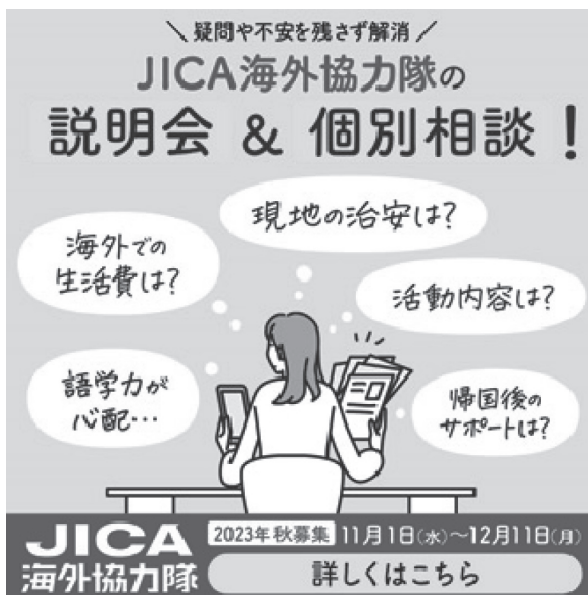
皆様、「国際協力に興味があるけど、何をしたらよいかわからない」「協力隊に関心がある」などの疑問・質問ありましたら、お気軽にJICA千葉デスクまでご連絡ください。

岩沢久美子

## JICA ニュース「人生なんてきっかけ次第」～JICA海外協力隊秋募集開始～

JICA海外協力隊の秋募集は、2023年11月1日(水)～12月11日(月)まで受け付けています。説明会も以下の日程で実施しています(一部のみ掲載)。「説明会の参加を逃した」や「もっと個別の相談がしたい」等のご要望がありましたら、お気軽にJICA千葉デスクまでご連絡ください。

- 【千葉会場】・11月11日(土) 14:00-16:00 場所:幕張メッセ/千葉市美浜区
- 【東京会場】・11月18日(土) 14:00-16:00 場所:JICA地球ひろば(JICA市ヶ谷ビル) /新宿区市谷本村町
- ・12月2日(土) 14:00-16:00 場所:JICA東京/渋谷区西原



### JICA千葉デスクに7月3日から、岩沢久美子さんが着任しました!

千葉県国際交流センター内 JICA千葉デスク 岩沢 久美子

TEL : 043-297-0245 / 090-4024-0441

FAX : 043-297-2753 E-mail : jicadpd-desk-chibaken@jica.go.jp



# 世界からようこそ千葉県へ!

## パプアニューギニア独立国



※外務省ホームページより引用

今回は、千葉県東金市の城西国際大学 国際部付特命教授のバハウ サイモン ピーター先生に、母国のパプアニューギニアについてご寄稿いただきました。バハウ先生には 2024 年 2 月 23 日の国際理解セミナーでも講師としてご講演いただきます。

### パプアニューギニアについて

皆さま、こんにちは！私は、パプアニューギニア（以下PNG）から来日しました、バハウ サイモン ピーターです。日本の文部科学省の奨学金のおかげで、約40年前に来日し、教育を受け、企業や大学で勤務し今もなお冒険のさなかにあります。



多様な民族の冠婚葬祭やフェスティバル・イベント等での様子。カイルク族の踊り子（ちなみに私の姪っ子です。）

南西太平洋に位置する私の母国・PNGには、約900万人が暮らし、850以上の言語を話す、世界でも有数の多様な文化と言語にめぐまれた国の一つであると言われています。PNGでは、何百もの異なる部族や氏族が共に住んでおり、それぞれが独自の伝統や習慣、信念を持っています。

その文化的な多様性が豊かさや回復力の原点となっている一方で、社会的な結束や国家のアイデンティティ、開発に対する課題をも示しています。歴史的に見るとPNGは移民、植民地化、異文化交流の波によって形作られてきました。

4万年前に初めての入植者が到来したとされ、他のどの言語にも属さない、いわゆる「パプア語」をもたらし、更に、約3,500年前、東南アジアと太平洋諸島からオーストロネシア人が到着し、新しい言語、作物、技術等を導入しました。その後、イギリスとドイツの植民地となったのちにオーストラリアに統治され、独自の言語、法律、制度を発展させてきました。そして1975年、ついに、PNGは幸いにも平和的に独立を果たしました。

独立後もPNGは多文化共生を促進する上で進歩の兆しと可能性を示し、英語を公用語に、そしてトク・ピシン語、ヒリ・モツ語も共通語として採用され、言語や文化の壁を越えたコミュニケーションを可能にする機能をしており、特にトク・ピシン語は人口の大多数が話しています。まさに、PNGの多様な文化遺産と創造性を反映していると言えます。



海の豊かな多様性が生活を支える。自作カヌーで釣りをする人々。

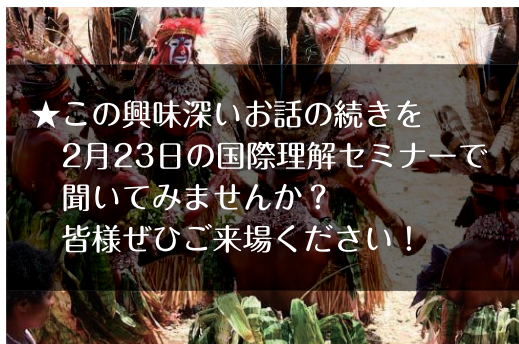
PNGの文化は、強いコミュニティ意識と連帯感によっても特徴付けられ、人々はしばしば、国籍ではなく氏族や部族で自分のアイデンティティを認識するのです。そして、独自の土地所有制度と交換ネットワークを通じて、親族関係や土地との密接な関係を維持しています。さらに、様々な形式の芸術、ダンス、音楽、儀式等を通じて、文化的帰属性と価値観を表現しています。

これらの文化的表現は、相互の尊敬と感謝の意を冠婚葬祭やイベント等を通じて、他のグループとも共有されます。

このように、パプアニューギニアにおける異文化理解と多文化共生は、多様性と統一性、伝統と現代性、地域主義とナショナリズムのバランスの上に成り立っているといえるでしょう。

### 予告 国際理解セミナー開催のお知らせ JICAと共催

バハウ先生の講演があります!



★この興味深いお話の続きを2月23日の国際理解セミナーで聞いてみませんか？皆様ぜひご来場ください！

日時：2024年2月23日（金・祝）13：30～16：00  
会場：千葉市文化センター5階セミナー室  
内容：第一部 パプアニューギニアについて（仮）  
講師／バハウ サイモン ピーター先生  
第二部 JICA教師海外研修 千葉県報告会  
参加費：無料 要事前申込（定員120名）

※詳細は追ってセンターHPでご案内いたします

Instagram ([https://www.instagram.com/chiba\\_international\\_center/](https://www.instagram.com/chiba_international_center/))、Twitter ([https://twitter.com/chiba\\_ccb\\_ic](https://twitter.com/chiba_ccb_ic)) 始めました！「千葉県国際交流センター」で検索して、ぜひフォローしてください。



公益財団法人 ちば国際コンベンションビューロー 千葉県国際交流センター  
〒261-8501 千葉市美浜区中瀬一丁目3番地 幕張テクノガーデンD棟14階  
TEL:043-297-0245 FAX:043-297-2753 E-mail:ied@ccb.or.jp

事務所が移転しました!

<https://www.mcic.or.jp/>へgo!  
センター事業の紹介、最新ニュース、講座やイベントなど役立つ情報を掲載。

年3回発行 (7,11,3月)